

# かごしまの教え

鹿児島には日常生活の中で、語りつがれてきた格言やことわざが残っています。郷土の先人たちが語り伝えてきたさまざまな教えは、時代の移り変わりにより、必ずしも現代社会にそのまま当てはまらないものもあるかもしれません。しかし、その根底にある人間としての生き方は、現代社会に生きる私たちに多くのことを教えてくれる、言葉の泉となっています。

— 16世紀に南薩摩を治めた

しまづじつしんこう  
島津日新公「いろは歌」から—

いにし(え) (え)  
古への道を聞きても唱へても  
おこなひ(い) (い)  
わが行にせずばかひなし

「昔から伝わる立派な教えをいくら聞いても、またどれだけ口先で唱えても、自分で実行しなければ何の役にも立たない。」という教えです。

— 「鹿児島県内のことわざ」から—

や すと  
家なれど 外なれ

(奄美大島のことわざ)

「家庭でのしつけや生活習慣がよく身につけていけば、外に出たときそのしつけは行いとなって表れる。」という教えです。



— 「西郷南洲翁遺訓」から—

みち てん ち し ぜん もの これ おこな(う)  
道は天地自然の物にして、人は之を行ふものなれば、

てん けい もくてき てん われ どういつ あい たま(う)  
天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給ふ

(え) われ あい ころもつ あい なり  
ゆゑ、我を愛する心を以て人を愛する也。

[意識]

道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのっとって行うべきものであるから何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛して下さるのだから、自分を愛する心をもって人を愛することが肝要である。



— 「鹿児島県内のことわざ」から—

な と  
泣こかい 跳ばかい  
な と  
泣こよっか ひっ跳べ

「跳べないとおじけて泣こうか、それとも跳ぼうか。泣きべそをかくより、えいっと思い切り跳んでやれ。」という教えです。



— 「鹿児島県内のことわざ」から—

てんと  
お天道さまが見ちよいやっど

てんとうさま ちか  
天道様は近さ

(沖永良部島のことわざ)

誰も見ていないと思っても、お天道様がちゃんとお見通しだから悪いことはしてはいけない。」「お天道様はついて回るから、いつもあなたの良心に聞いてみなさい。」という教えです。